

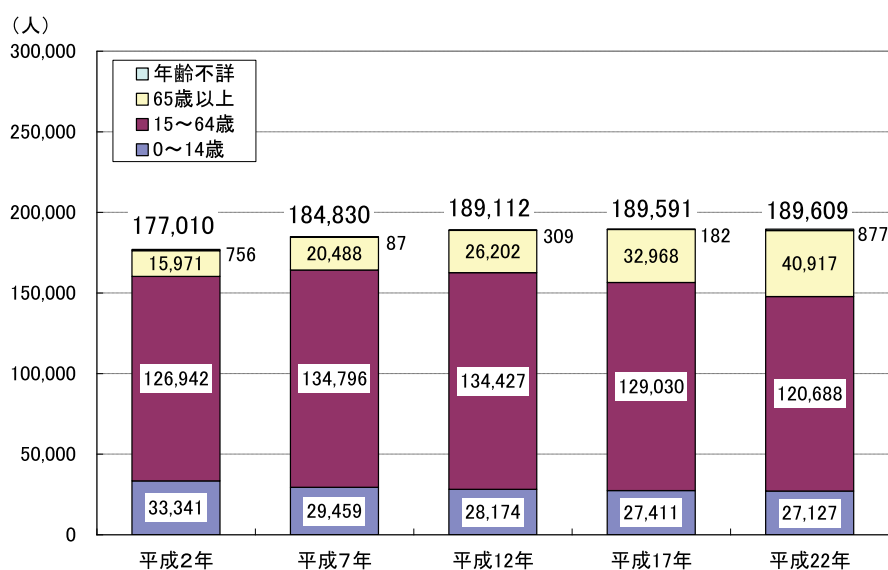
2 宇治市の現状と課題

2.1 人口

2.1.1 総人口

本市の人口はこれまで増加傾向にありましたが、平成12年以降増加幅は大きく縮小しており、平成17年から22年にかけては18人の増と、ほぼ横ばいといえる状況になっています。また、生産年齢人口は平成7年をピークに減少に転じ、少子高齢社会が進展しています。

図表-1 宇治市の総人口の推移



(資料) 総務省「国勢調査報告書」

2. 1. 2 人口推計

平成24年10月1日現在の住民基本台帳（外国人登録を含む）の人口値に基づき、コーホート要因法を用いた本市推計では、平成42年には、総人口が177,946人となります。年齢構成比では、0～14歳が11.6%、65歳以上が30.3%となり、少子高齢社会が一層進展するものと見込まれます。

図表-2 宇治市の人口推計

	実績値		推計値			
	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年
総人口	191,623	192,999	191,402	188,668	184,138	177,946
65歳以上	32,663	41,104	50,250	53,802	53,879	53,923
15～64歳	131,224	124,234	114,693	110,449	107,788	103,396
0～14歳	27,736	27,661	26,459	24,417	22,471	20,627

(資料) 実績値は「住民基本台帳」

図表-3 宇治市の年齢3区分構成比

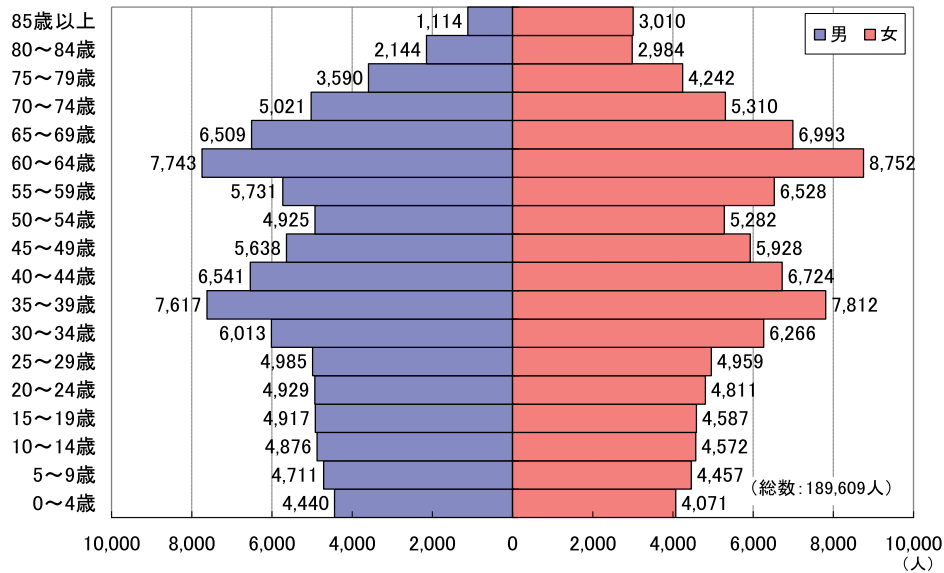
	実績値		推計値			
	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
65歳以上	17.0%	21.3%	26.3%	28.5%	29.3%	30.3%
15～64歳	68.5%	64.4%	59.9%	58.5%	58.5%	58.1%
0～14歳	14.5%	14.3%	13.8%	12.9%	12.2%	11.6%

(資料) 実績値は「住民基本台帳」

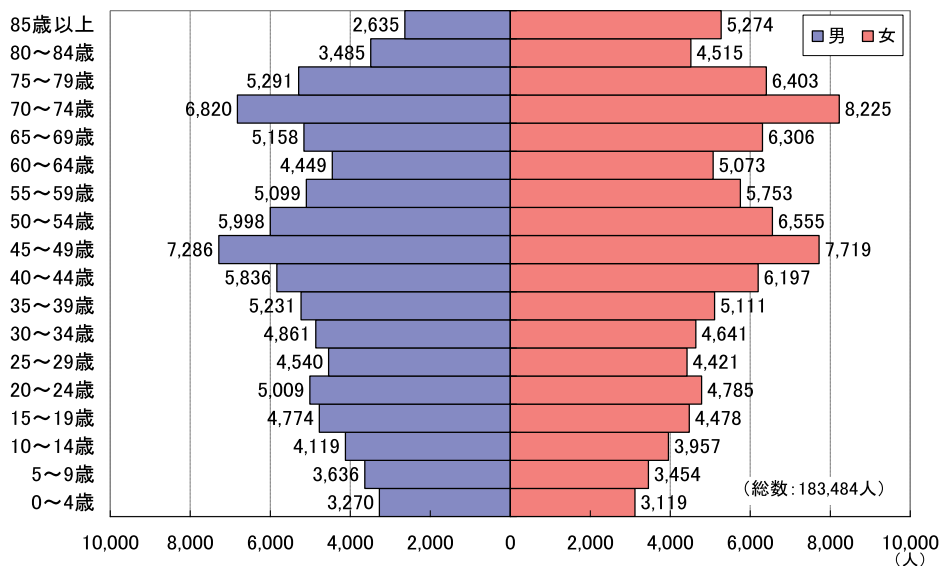
国立社会保障人口問題研究所の推計によれば、平成32年には一層の少子高齢社会が進展するものと見込まれており、人口ピラミッドでみると、若い世代ほど縮小していくことがわかります。

図表-4 宇治市における平成22年と32年の人口ピラミッド

【平成22年】



【平成32年】



(注) 平成22年は国勢調査、平成32年は国立社会保障人口問題研究所による推計値。
 (資料) 総務省、国立社会保障人口問題研究所

2. 1. 3 人口移動

(1) 人口動態推移

過去5年間の宇治市の人口動態の推移では、出生・死亡による自然動態は概ね増加で推移しています。一方で、転入・転出による社会動態は概ね減少で推移しています。

図表-5 人口動態推移

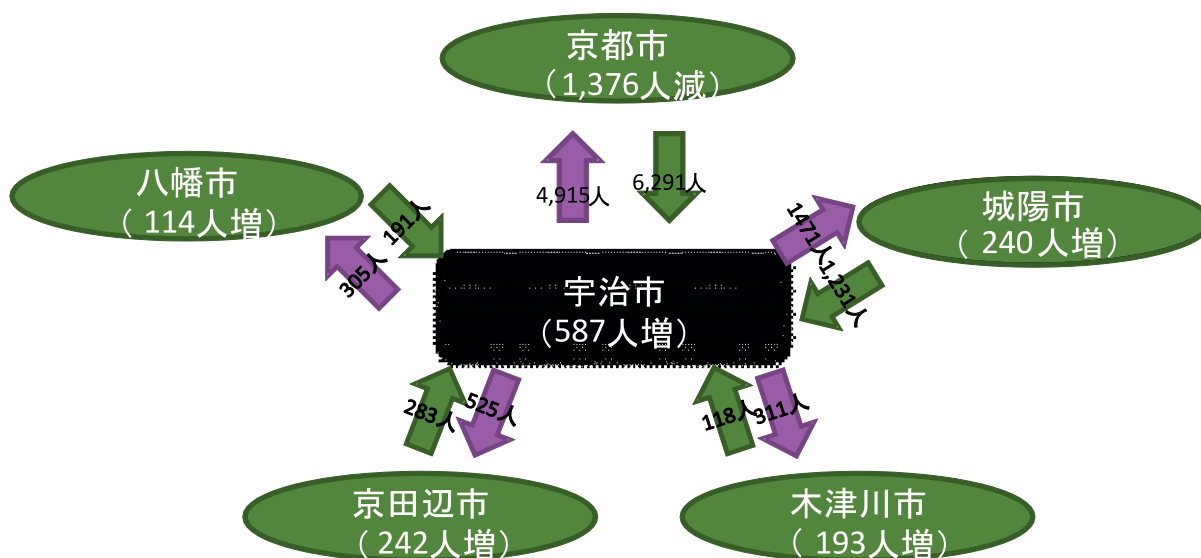
	自然動態			社会動態			人口増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
平成20年	1,621	1,278	343	7,051	7,695	△ 644	△ 301
平成21年	1,633	1,373	260	7,200	7,443	△ 243	17
平成22年	1,620	1,452	168	6,666	6,886	△ 220	△ 52
平成23年	1,577	1,521	56	7,009	6,783	226	282
平成24年	1,544	1,555	△ 11	6,524	7,048	△ 524	△ 535

(資料) 住民基本台帳

(2) 京都府南部6都市間の人口移動の状況

平成17年から22年の宇治市と周辺5都市との人口移動の状況を見ると、京都市から1,376人の流入多（流出4,915人、流入6,291人）のほかは、流出口のほうが多くなっています。

図表-6 南部6都市間相互の人口移動状況（宇治市関連のみ）



		京都市	城陽市	木津川市	京田辺市	八幡市	6都市間計
宇治市	流入人口	6,291	1,231	118	283	191	8,114
	流出人口	4,915	1,471	311	525	305	7,527
合計		1,376	△ 240	△ 193	△ 242	△ 114	587

(資料) 総務省「平成22年国勢調査報告」

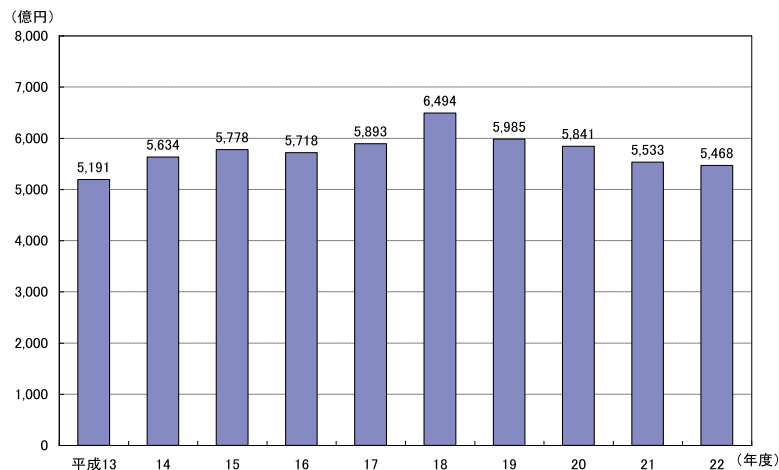
2.2 産業・雇用

2.2.1 市内総生産

(1) 市内総生産の推移

本市の市内総生産は、平成13年度から18年度にかけて増加傾向が続いていましたが、近年再び減少傾向に転じています。

図表-7 市内総生産

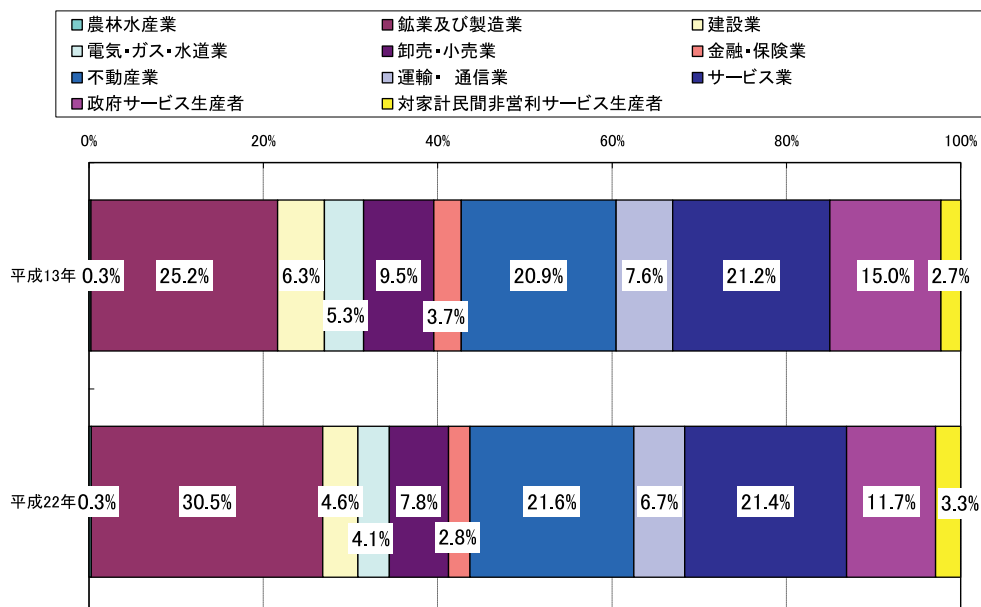


(資料) 京都府「平成22年度きょうとの市町村民経済計算」

(2) 市内総生産内訳

市内総生産の内訳をみると、製造業や不動産業の比率が上昇しているのに対し、建設業や卸売業・小売業の比率が低下しています。

図表-8 市内総生産内訳



(資料) 京都府「平成22年度きょうとの市町村民経済計算」

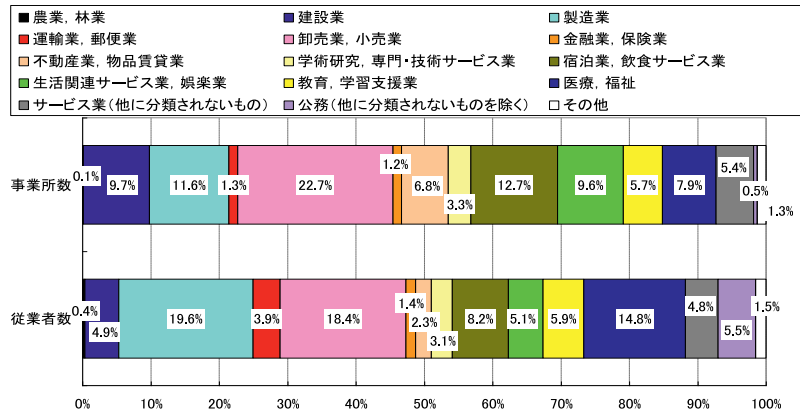
2. 2. 2 産業・雇用

(1) 産業別事業所・従業者数

本市内の事業所数が最も多いのは卸売業・小売業で、次いで宿泊業・飲食サービス業、製造業、建設業の順となっています。

従業者数が最も多いのは製造業で、次いで卸売業・小売業、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業の順となっています。

図表-9 産業別事業所・従業者数の構成比（平成21年）



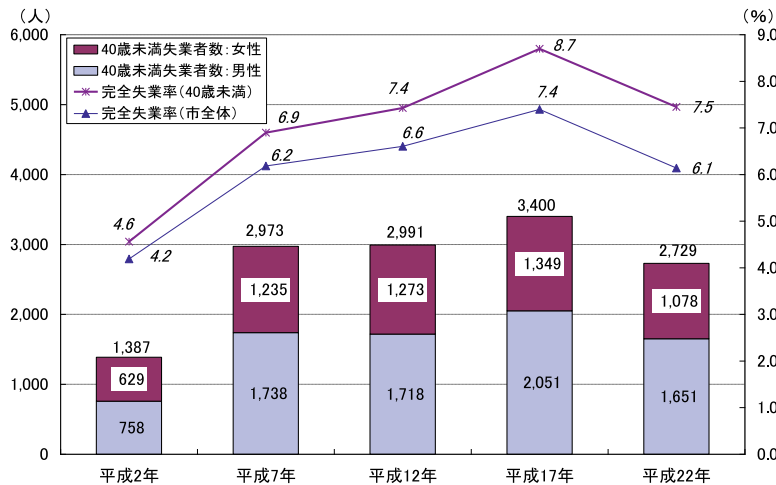
(資料) 総務省「経済センサス」

(2) 完全失業率

本市においては、平成2年から7年にかけて失業率が急激に上昇し、失業者が増加しました。特に40歳未満の若年層では、平成17年には完全失業者が3,400人に達しました。

平成22年の時点ではやや改善がみられますが、厳しい経済状況が続いており、今後の動向を注視する必要があります。

図表-10 宇治市における完全失業率・40歳未満の失業者数の推移



(注) 完全失業率は国勢調査上の完全失業者の数値を労働力人口で割ったもの。労働力人口とは15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたもの。

就業者とは「主に仕事」「家事のほか仕事」「通学のかたわら仕事」「休業者」が含まれます。完全失業者は調査週間中、収入になる仕事を少しもしなかった人のうち、仕事に就くことが可能であつて、かつ、公共職業安定所に申し込むなどして積極的に仕事を探していた人。

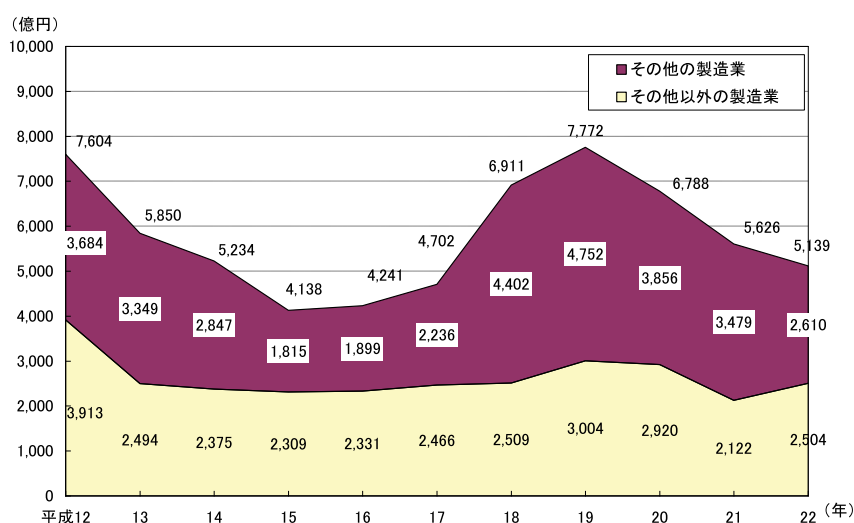
(資料) 総務省「国勢調査報告」

(3) 製造業

本市の製造業における製造品出荷額等は、平成12年から13年にかけて大きく減少したものの、その後反転し、平成19年まで増加が続いていましたが、再び減少に転じています。本市における製造品出荷額等のおよそ5割、年によってはそれ以上の割合を中分類「その他の製造業」が占めています。これは大手ゲーム機メーカーの出荷額の影響と考えられます。

製造業の事業所数は、平成12年から14年にかけて減少したものの、平成14年から15年にかけては増加に転じ、増減を繰り返しながら推移してきましたが、平成20年から21年にかけては再び大きく減少しました。また、従業者数の推移も事業所数の増減と概ね一致していますが、平成22年には増加に転じています。

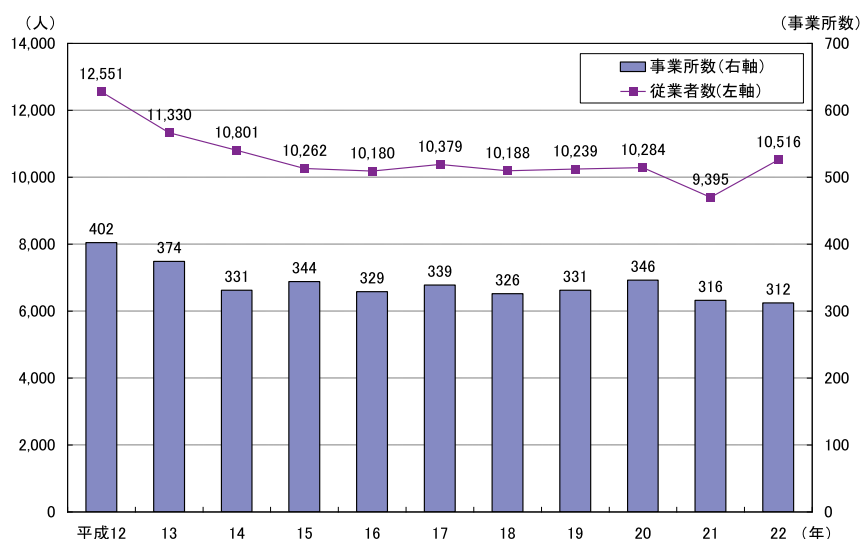
図表-11 宇治市における製造品出荷額等の推移



(注) 平成17年・18年については、「その他製造業」の数値が秘匿であったため、「総計」より「その他以外の製造業」の合計を引いた数値。

(資料) 経済産業省「工業統計調査」

図表-12 宇治市の製造業における事業所数・従業者数の推移



(資料) 経済産業省「工業統計調査」

2. 2. 3 消費構造

宇治市民の消費行動について、アンケート調査結果をもとに全市の消費構造を推計しました。

月間約82億円の消費があり、うち約49億円（全消費の6割）が市内の商店やチェーン店などで消費されています。

図表-13 宇治市内での月間消費構造（試算）

分類	製品例	買った手段					計	
		市内の商店	市内のチェーン店・コンビニ	市外の店	その他	不明		
食料品	穀類 魚介、肉 乳卵 野菜、海藻 果物 油脂、調味料 調理食品 菓子類	米、パン、めん類、小麦粉、 生鮮魚介、かまぼこ、 生鮮肉、ハム、牛乳、卵、 バター、生鮮野菜、わかめ、 豆腐、納豆、生鮮果物、 果物の缶詰、食用油、 調味料、弁当、冷凍食品、 洋菓子、和菓子 など	1,148百万円	1,473百万円	674百万円	289百万円	34百万円	3,618百万円
	飲料 酒類	お茶、ジュース、水、 コーヒー、ビール、 ワイン、発泡酒 など	140百万円	167百万円	101百万円	30百万円	3百万円	441百万円
		宇治茶 (市内の茶間屋で買ったもの)	37百万円	10百万円	8百万円	2百万円	0百万円	57百万円
外食 (給食費を除く)	外食、喫茶代、飲酒代 など	214百万円	102百万円	427百万円	56百万円	5百万円	804百万円	
家具・ 家事用品	家庭用耐久財	電子レンジ、冷蔵庫、 掃除機、洗濯機、たんす、 エアコン、ソファ など	119百万円	51百万円	241百万円	41百万円	0百万円	451百万円
	室内装備・装飾品 寝具類 家事雑貨 家事用消耗品	照明、カーテン、ベッド、 布団、皿、なべ、タオル、 ドライバー、ビニール袋、 ティッシュ、洗剤 など	91百万円	133百万円	89百万円	24百万円	3百万円	340百万円
被服及び履物		洋服、着物、制服、下着、 靴下、ネクタイ、靴、 クリーニング代 など	118百万円	96百万円	424百万円	82百万円	2百万円	722百万円
保健医療 (医療機関等での 診療・入院費を除く)		医薬品、サプリメント、 おむつ、眼鏡、マスク、 コンタクトレンズ、体重計 など	107百万円	77百万円	108百万円	68百万円	3百万円	364百万円
教養 娯楽	教養娯楽用耐久財	テレビ、カメラ、パソコン、 楽器、学習用机 など	73百万円	44百万円	120百万円	53百万円	1百万円	290百万円
	教養娯楽用品 書籍・他の印刷物	文房具、ゲーム、おもちゃ、 スポーツ用品、ペットフード、 CD、新聞、雑誌、書籍、 楽譜、ポスター など	183百万円	81百万円	76百万円	61百万円	10百万円	409百万円
その他		美容院、化粧品、かみそり、 石鹸、傘、かばん、 身のまわり用品、たばこ など	333百万円	164百万円	152百万円	90百万円	5百万円	744百万円
合計			2,562百万円	2,399百万円	2,419百万円	795百万円	66百万円	8,241百万円

(注) 内訳の合計と計・合計欄は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

全消費額を100としたときの品目別手段別の比率をみると、「市内のチェーン店・コンビニ」で「食料品：穀類等」を消費するのが18%、「市内の商店」で「食料品：穀類等」を消費するのが14%と多くなっています。

「食料品」以外の品目でみると、概ね0～2%台の比率となっていますが、「市外の店」で「外食」、「市外の店」で「被服及び履物」の消費が5%、「市内の商店」で「その他（美容院等）」が4%と少し高い比率となっています。

図表-14 全消費額に占める品目別手段別比率

分類	製品例	買った手段				計	
		市内の商店	市内のチェーン店・コンビニ	市外の店	その他		
食料品	穀類 魚介、肉 乳卵 野菜、海藻 果物 油脂、調味料 調理食品 菓子類	13.9%	17.9%	8.2%	3.5%	43.9%	
	飲料 酒類	お茶、ジュース、水、 コーヒー、ビール、 ワイン、発泡酒 など	1.7%	2.0%	1.2%	0.4%	5.4%
		宇治茶 (市内の茶間屋で買ったもの)	0.4%	0.1%	0.1%	0.0%	0.7%
外食 (給食費を除く)	外食、喫茶代、飲酒代 など	2.6%	1.2%	5.2%	0.7%	9.8%	
家具・ 家事用品	家庭用耐久財	1.4%	0.6%	2.9%	0.5%	5.5%	
	室内装備・装飾品 寝具類 家事雑貨 家事用消耗品	1.1%	1.6%	1.1%	0.3%	4.1%	
	被服及び履物	1.4%	1.2%	5.1%	1.0%	8.8%	
	保健医療 (医療機関等での 診療・入院費を除く)	1.3%	0.9%	1.3%	0.8%	4.4%	
教養 娯楽	教養娯楽用耐久財	0.9%	0.5%	1.5%	0.6%	3.5%	
	教養娯楽用品 書籍・他の印刷物	2.2%	1.0%	0.9%	0.7%	5.0%	
その他	美容院、化粧品、かみそり、 石鹸、傘、かばん、 身のまわり用品、たばこ など	4.0%	2.0%	1.8%	1.1%	9.0%	
合計		31.1%	29.1%	29.4%	9.7%	100.0%	

(注) 内訳の合計と計・合計欄は、内訳に「買った手段」の不明を記載していないことや四捨五入の関係で合わない場合があります。

平成23年家計調査における京都市の調査結果と比較すると、宇治市は消費総額が京都市の6割程度となっています。

分類別にみると、「食料品」の消費割合が高く、「教養娯楽」及び「その他（美容院、身の回り用品等）」の消費割合が低くなっています。これらの「教養娯楽」及び「その他（美容院、身の回り用品等）」は、宇治市内での消費割合が低いため、市民の教養娯楽活動を活発にすること等により、これらの消費需要の増加が期待でき、ひいては市内消費を増加することができます。ごく簡単な試算では、市外に流出している消費の一定額を市内に振り向けると、振り向けた額以上の経済効果があると見込まれます。より詳細な経済効果を算出するためには、さらなる市内経済の分析を行う必要があります。

図表-15 全消費額に占める品目別手段別比率

分類		製品例	比率	
			宇治市	京都市
食料品	穀類 魚介、肉 乳卵 野菜、海藻 果物 油脂、調味料 調理食品 菓子類	米、パン、めん類、小麦粉、 生鮮魚介、かまぼこ、 生鮮肉、ハム、牛乳、卵、 バター、生鮮野菜、わかめ、 豆腐、納豆、生鮮果物、 果物の缶詰、食用油、 調味料、弁当、冷凍食品、 洋菓子、和菓子 など	43.9%	36.7%
	飲料 酒類	お茶、ジュース、水、 コーヒー、ビール、 ワイン、発泡酒 など	5.4%	4.2%
		宇治茶 (市内の茶問屋で買ったもの)	0.7%	-
	外食 (給食費を除く)	外食、喫茶代、飲酒代 など	9.8%	8.5%
家具・ 家事用品	家庭用耐久財	電子レンジ、冷蔵庫、 掃除機、洗濯機、たんす、 エアコン、ソファ など	5.5%	1.1%
	室内装備・装飾品 寝具類 家事雑貨 家事用消耗品	照明、カーテン、ベッド、 布団、皿、なべ、タオル、 ドライパー、ビニール袋、 ティッシュ、洗剤 など	4.1%	4.1%
被服及び履物		洋服、着物、制服、下着、 靴下、ネクタイ、靴、 クリーニング代 など	8.8%	6.8%
保健医療 (医療機関等での 診療・入院費を除く)		医薬品、サプリメント、 おむつ、眼鏡、マスク、 コンタクトレンズ、体重計 など	4.4%	3.9%
教養娯楽	教養娯楽用耐久財	テレビ、カメラ、パソコン、 楽器、学習用机 など	3.5%	0.3%
	教養娯楽用品 書籍・他の印刷物	文房具、ゲーム、おもちゃ、 スポーツ用品、ペットフード、 CD、新聞、雑誌、書籍、 楽譜、ポスター など	5.0%	18.4%
その他 (美容院、身の回り 用品等)		美容院、化粧品、かみそり、 石鹸、傘、かばん、 身のまわり用品、たばこ など	9.0%	16.0%
合 計			100.0%	100.0%
総額(円)			102,419	160,302

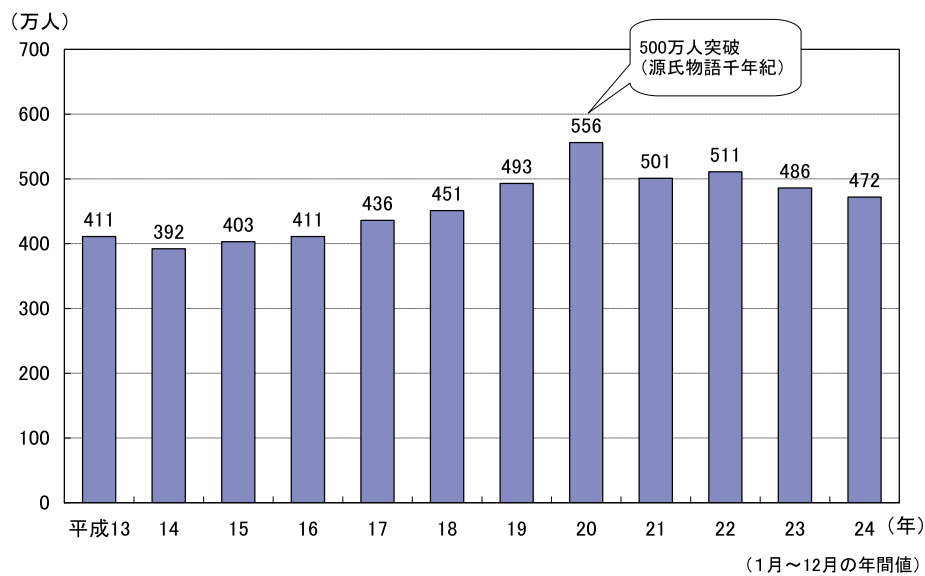
(資料) 総務省「家計調査」

2.3 観光

本市の観光入込客数の推移をみると、平成14年から20年まで増加が続き、源氏物語千年紀に係る取組を展開した平成20年には500万人を突破しました。

平成21年は、千年紀が終わった反動で減少に転じており、平成22年はやや持ち直したものの、平成23年は500万人を割り込んでいます。これは、東日本大震災や円高などの影響と考えられます。

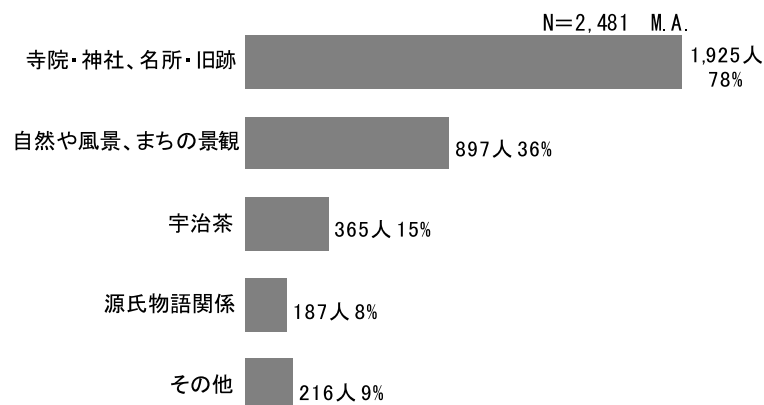
図表-16 宇治市の観光入込客数の推移



(資料) 京都府観光入込客数調査

本市を訪れた観光客の宇治観光の主な目的で最も多いのは、「寺社・神社、名所・旧跡」で約8割となっています。

図表-17 宇治観光の主な目的



(資料) 宇治市観光動向調査 (平成24年3月)

2.4 宇治市の潜在能力

2.4.1 都市イメージ

「宇治」をキーワードにして新聞記事を検索すると、固有名詞を除くと最も多いのが「お茶」という結果となっており、宇治といえば「お茶」というイメージの形成につながっていると考えられます。

図表-18 キーワード「宇治」で検索した結果

宇治市との関連があるもの		宇治市との関連がないもの		
1,350	学校(立命館宇治)	640	宇治山田	449
	宇治市民	181	個人名	147
	お茶	122	宇治田原	95
	学校	54	伊勢市宇治(宇治山田以外)	91
	企業	41	宇治橋(伊勢市)	27
	スポーツ	32	その他地名(岡山県)	11
	警察	32	宇治電化学工業(高知県)	7
	鉄道	17	その他地名(鹿児島県)	3
	宇治川	16	その他地名(鳥取県)	3
	源氏物語関係	14	その他地名(愛知県)	1
	宇治の平等院鳳凰堂	10	その他地名(島根県)	1
	産品	9	その他	5
	宇治橋(宇治市)	8		
	自衛隊	7		
	宇治・萬福寺(宇治の萬福寺)	5		
	宇治上神社	5		
	宇治神社	5		
	学校(京都大学)	5		
	宇治イベント	4		
	宇治拾遺物語	3		
	道路	3		
	その他(史跡)	2		
	宇治・三室戸寺	2		
	宇治の世界遺産	1		
	源氏物語ミュージアム	1		
	その他	131		

(資料) 日本経済新聞、日経産業新聞、日経MJ、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、日刊工業新聞、Fuji Sankei Business i 各市における平成23年1月1日から1月31日までに登場した「宇治」の登場件数を集計

日経グローバルの「地域ブランドの実力度指標」によると、「宇治茶」は地域ブランド583銘柄の中で5位にランクインしており、「松阪牛・松阪肉」に次ぎ、「京の八ツ橋」より上位となっています。

お茶だけに絞り込むと、「静岡茶」をおさえて1位のブランド力を誇ります。知名度も81.6%と最も高く、他の銘柄は「静岡茶」を除けば5割以下の知名度となっており、お茶に関しては圧倒的なブランド力と知名度を有していることがわかります。

図表-19 「宇治茶」のブランド力

【総合ランキング】

全体順位	地域ブランド名	商品分野	実力度指数 偏差値平均
1	夕張メロン(北海道)	果物	93.9
2	魚沼産コシヒカリ(新潟)	コメ	90.1
3	長崎カステラ(長崎)	菓子	89.3
4	松阪牛・松阪肉(三重)	精肉・肉加工品	84.0
5	宇治茶(京都)	茶	82.0
6	京の八ツ橋(京都)	菓子	81.7
7	(純鶏・純系)名古屋コーチン	精肉・肉加工品	81.6
8	静岡茶(静岡)	茶	79.0
9	長崎ちゃんぽん(長崎)	麺類	78.5
10	琉球泡盛(沖縄)	酒	77.2

【商品分野別「茶」のランキング】

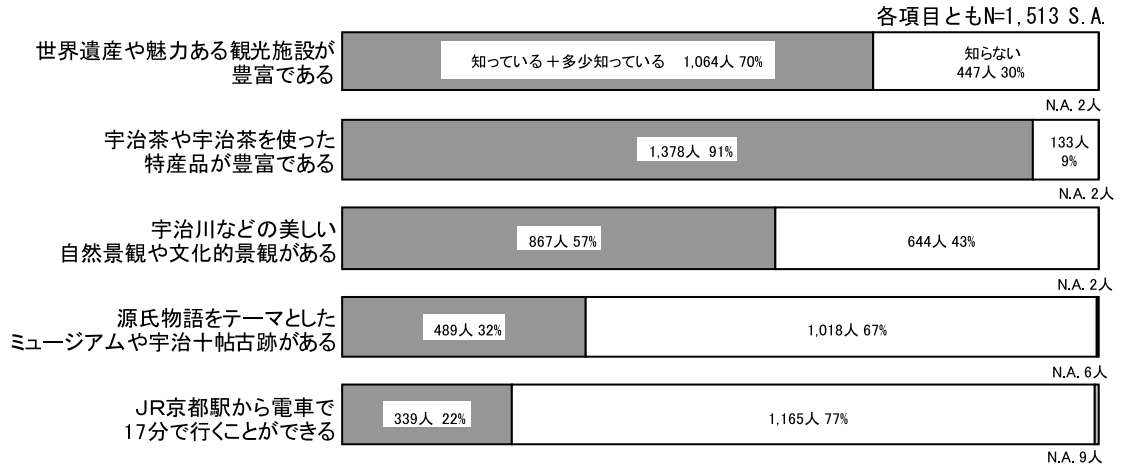
全体順位	地域ブランド名	実力度指数 偏差値平均	知名度
1	宇治茶(京都)	82.0	81.6
2	静岡茶(静岡)	79.0	75.9
3	八女茶・福岡の八女茶(福岡)	64.4	49.1
4	掛川茶(静岡)	52.7	24.0
5	うれしの茶(佐賀)	51.3	18.8
6	川根茶(静岡)	50.7	16.9
7	かごしま知覧茶・知覧茶(鹿児島)	49.3	12.6
8	伊勢茶(三重)	47.6	11.3
9	足利茶(神奈川)	45.2	7.1
9	美濃白川茶(岐阜)	45.2	5.5

(注) 平成19年2月現在で、地域団体商標(地域ブランド)として認定されたもの、認定出願中のもの、地域団体商標の創設前に登録されていた文字のみの地名をつけていた商標、合わせて583銘柄が調査対象となっています。

(資料) 日経グローバル(2007年3月5日号)

また、京都市に観光に来た観光客（訪洛観光客）の宇治に関する認知を聞いたところ、「宇治茶や宇治茶を使った特産品が豊富」が9割の認知、「世界遺産や魅力ある観光施設が豊富である」が7割の認知となっています。

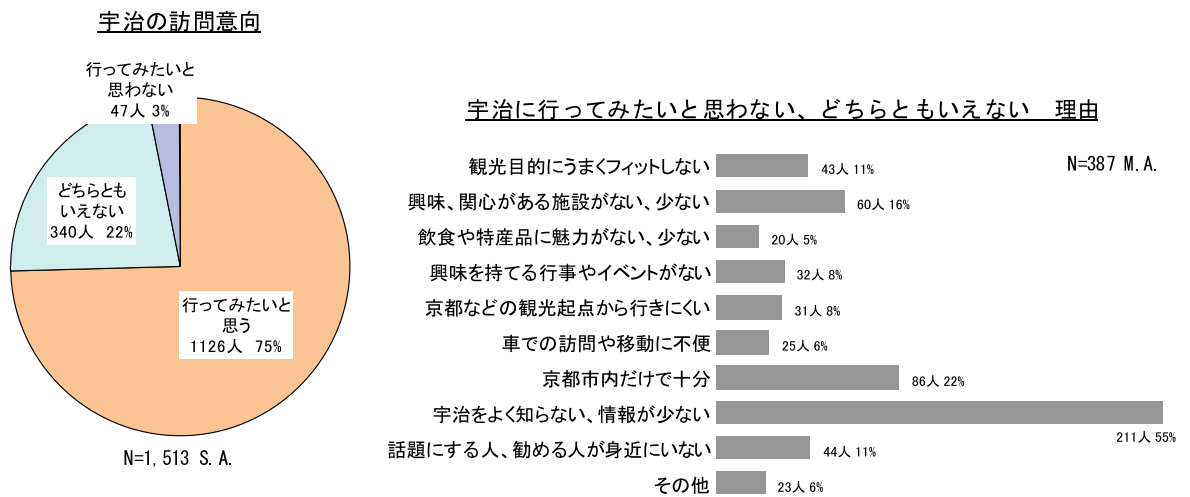
図表-20 訪洛観光客の宇治に関する認知



(資料) 宇治市観光動向調査 (平成24年3月)

訪洛観光客に対して宇治の訪問について聞いたところ、「行ってみたいと思う」は、75%となっています。「どちらともいえない」または「行ってみたいと思わない」人の理由は、「宇治をよく知らない、情報が少ない」を理由に挙げる人が55%となっています。

図表-21 訪洛観光客の宇治への訪問意向



(資料) 宇治市観光動向調査 (平成24年3月)

2. 4. 2 アジアとの距離

地理的距離ではなく、実際の交通ダイヤに即した時間距離でみた場合、本市から国内の沖縄に到着する時間と、海外の釜山に到着する時間はほとんど変わらず、ソウルも概ね同じくらいの所要時間であり、飛行機に乗っている時間はむしろ短くなっています。

上海や台北も、現地時間の午前中には到着でき、東アジアの主要都市は、国内の遠方都市と変わらない所要時間で行き来できます。

産業振興や誘客において、このような観点での取組が期待されます。

図表-22 アジアとの距離

JR宇治駅 6時01分発

都市名	到着時刻	乗車・乗機時間
札幌(新千歳空港)	12時05分	4時08分
沖縄(那覇空港)	11時00分	3時56分
ソウル(仁川空港)	11時20分	3時46分
釜山(釜山空港)	10時55分	3時21分
上海(浦東空港)	10時30分 (日本時間11時30分)	4時26分
台北(桃園空港)	11時05分 (日本時間12時05分)	4時51分
北京(北京空港)	11時50分 (日本時間12時50分)	5時16分

【沖縄】

発着駅		
JR宇治駅	発 6:01	[JR奈良線・普通]
↓		
京都駅	着 6:25	
↓	発 6:45	[はるか5号]
↓		
関空	着 8:17	ANA1731
↓	発 9:00	
↓		
那覇空港	着 11:00	

【釜山】

発着駅		
JR宇治駅	発 6:01	[JR奈良線・普通]
↓		
京都駅	着 6:25	
↓	発 6:45	[はるか5号]
↓		
関空	着 8:17	
↓	発 9:30	OZ144
↓		
釜山空港	着 10:55	

(注) 札幌のみ、6:01発の場合乗り継ぎ時間が長くなるため、7:13発としています。

(資料) JTB時刻表2013年9月号

2. 4. 3 宇治市の魅力度

(株) ブランド総合研究所の平成25年度地域ブランド調査では、本市は1,000自治体中35位となっています。

図表-23 市区町村の魅力度ランキング

全順位		市区町村名	都道府県名
今年	前年		
1	2	京都市	京都府
2	3	函館市	北海道
3	1	札幌市	北海道
4	4	横浜市	神奈川県
5	6	富良野市	北海道
6	6	小樽市	北海道
7	6	鎌倉市	神奈川県
8	5	神戸市	兵庫県
9	9	金沢市	石川県
10	10	石垣市	沖縄県
11	13	軽井沢町	長野県
12	11	那覇市	沖縄県
13	12	屋久島町	鹿児島県
14	16	別府市	大分県
15	18	箱根町	神奈川県
16	15	沖縄市	沖縄県
16	31	長崎市	長崎県
18	28	仙台市	宮城県
18	17	日光市	栃木県
20	24	福岡市	福岡県
21	21	伊豆市	静岡県
22	37	浦安市	千葉県
23	20	熱海市	静岡県
24	35	新宿区	東京都
25	53	出雲市	島根県
26	29	姫路市	兵庫県
27	23	倉敷市	岡山県
28	43	伊勢市	三重県
29	19	奈良市	奈良県
30	24	名古屋市	愛知県
31	36	渋谷区	東京都
32	22	釧路市	北海道
33	26	旭川市	北海道
34	14	宮古島市	沖縄県
35	39	宇治市	京都府
36	40	茅ヶ崎市	神奈川県
37	34	登別市	北海道
38	26	尾道市	広島県
39	61	稚内市	北海道
40	45	逗子市	神奈川県
41	59	下関市	山口県
41	47	港区	東京都
43	37	帯広市	北海道
44	52	四万十町	高知県
44	61	横須賀市	神奈川県
46	46	大阪市	大阪府
47	81	志摩市	三重県
47	50	与那国町	沖縄県
49	73	鹿児島市	鹿児島県
50	32	高山市	岐阜県

全順位		市区町村名	都道府県名
今年	前年		
50	30	飛騨市	岐阜県
52	104	四万十市	高知県
53	54	安曇野市	長野県
54	41	萩市	山口県
54	67	弘前市	青森県
56	47	品川区	東京都
57	73	伊東市	静岡県
57	75	熊本市	熊本県
59	60	石狩市	北海道
59	84	長野市	長野県
61	56	会津若松市	福島県
61	89	阿蘇市	熊本県
61	64	下呂市	岐阜県
61	125	高千穂町	宮崎県
65	56	世田谷区	東京都
66	58	白馬村	長野県
66	76	平泉町	岩手県
68	81	洞爺湖町	北海道
69	72	小田原市	神奈川県
69	66	美瑛町	北海道
69	117	彦根市	滋賀県
69	79	由布市	大分県
69	68	米沢市	山形県
74	49	奄美市	鹿児島県
74	54	松本市	長野県
74	85	盛岡市	青森県
74	32	輪島市	石川県
78	64	指宿市	鹿児島県
79	44	宝塚市	兵庫県
79	128	目黒区	東京都
81	92	白浜町	和歌山県
81	153	夕張市	北海道
83	91	浜松市	静岡県
83	96	広島市	広島県
85	110	静岡市	静岡県
85	79	千歳市	北海道
87	61	ニセコ町	北海道
88	78	草津町	群馬県
88	107	佐世保町	長崎県
90	113	中央区	東京都
90	100	富士河口湖町	山梨県
92	97	名護市	沖縄県
92	107	宮崎市	宮崎県
94	42	太宰府市	福岡県
94	110	那智勝浦町	和歌山県
96	170	富士市	静岡県
97	69	芦屋市	兵庫県
97	86	黒部市	富山県
99	93	高知市	高知県
99	144	小豆島町	香川県

(資料) (株) ブランド総合研究所 平成25年度地域ブランド調査 魅力度ランキング

2.5 宇治市の課題

本市の課題としては、次のものが挙げられます。

○都市の魅力を高め、人口減少に歯止めをかけ、人口構成のバランスを保つ

国では一層の少子高齢社会の進展が見込まれており、本市においても同様の傾向にあります。特に、若年層ほど少ない人口ピラミッドとなり、少子化の進行が顕著です。

このため、人口構成のバランスと定住人口の減少が課題であり、これらに歯止めをかける方策の検討が必要となります。

○宇治の魅力の再認識・創造・発信

宇治茶の知名度、ブランド力は高く、宇治といえば「お茶」というイメージの形成につながっています。また、宇治上神社、平等院の世界文化遺産をはじめ、社寺、ミュージアムなどの観光スポットも多数あり、全国でも宇治の知名度は高いと考えられます。

これらの良いイメージを活かしつつ、生活の場、企業活動の場としての側面も合わせ、宇治に関わる全ての人が宇治の魅力を再認識し、また新しく創造し、より多くの人に理解してもらえるよう情報を効果的に発信する方策の検討が必要となります。

○交流人口の維持・増加

観光客数は、源氏物語千年紀に係る取組を実施した平成20年に最多の556万人を記録しましたが、これからは人口減少社会を迎え、国内旅行市場規模が縮小傾向にあると考えられます。観光客だけでなく、本市を訪れる全ての人の満足度や、活発な交流によってもたらされる地域経済の活性化に向けた方策の検討が必要となります。

○多様な企業の成長促進

市内総生産、製造品出荷額等は、平成18・19年をピークに減少傾向が続いています。また、製造品出荷額等の推移をみると「その他製造業」の占める割合が5割以上であり、大手ゲーム機メーカーの業績に大きく影響を受ける産業構造となっています。その一方で、本市の発展を支え、地域の活性化に貢献した企業も多数存在します。これからも、事業規模を問わず、本市に愛着を持ってまちとともに元気に成長する多様な企業が存在し続けられる方策の検討が必要となります。